

ローレルインテリジェントシステムズの創業は平成元年。同社が誕生したきっかけは遡ること60年前。創業者の鳥飼將迪氏（現相談役会長）が当時勤めていた富士銀行（現みずほ銀行）にて、業

創業の出発点は銀行業務の機械化・合理化システムの開発

情報管理は紙から電子へ。時流と共に情報セキュリティ会社を設立

「コロナ禍にともない在宅ワークやネット取引が以前にもまして増加し、幅広い分野でセキュリティ強化の必要性が高まっています。こうしたニーズに応え、デジタル全盛の現代社会の安心・安全に貢献していきます」こう話すのは同社代表取締役社長の藤井幹雄氏。情報セキュリティのスペシャリスト集団を率いて、多忙な日々を送る同氏に企業の歴史や取り組みを詳しく伺った。

テクノロジーの進化により、情報管理の多くが紙から電子へと切り替わり、情報の受け渡しもネットワーク上で行われることが当たり前の時代となった。便利な反面情報漏えいなどのリスクが常につきまとい、自治体や企業といった業界問わず重大な情報流出のニュースが世間を騒がせることも珍しくない。こうした中で重要となってくるのが情報の管理、セキュリティだ。紙の管理であれば物理的な入れ物や鍵がセキュリティのツールとなるが、電子においては「コンピュータ上の入れ物、そしてそれを開ける鍵の構築が重要となる。」

東京に本社を構える株式会社ローレルインテリジェントシステムズは、平成元年の創業以来電子の情報セキュリティシステムの開発に特化した事業を展開し、多くのクライアントから絶大な信頼を集めている企業だ。

デジタル社会における 情報セキュリティのスペシャリスト集団

ICカード（トークン）の認証技術・暗号技術で、
情報資産の「機密性・可用性・完全性」を確保



パスワードや
生体情報といった
鍵となる情報を全て
カード内で管理
している点が当社の
大きな特徴です

株式会社ローレルインテリジェントシステムズ

代表取締役社長

藤井 幹雄



指静脈、顔、指紋など様々な認証方法を容易に追加することができる

務の機械化や事務合理化のための事務集中処理システムの開発を担当したことから始まる。

「鳥飼会長は昭和51年に紙幣バラ出し可能なオンライン現金自動支払機の開発を企画し、その要である現金支払機の開発をローレルバンクマシンに委託しました。開発は順調に進み、世界初の紙幣バラ出し型オンライン現金自動払出機を完成させたのです」

手作業であったもののコンピューター化。世の中にとって便利なシステムの開発に成功した鳥飼氏は一方で「コンピューター上にある情報セキュリティの重要性」も強く感じるようになる。こうして鳥飼氏は、時代背景の後押しも受け、情報セキュリティ専門の会社を立ち上げることを決意。

冒頭の年の12月に、鳥飼氏と日本では数少ない暗号研究者の一人であった平田耕三氏ら5人でローレルインテリジェントシステムズを設立した。

藤井社長は「当初インテリジェントシステムズという社名の予定でしたが、ローレルバンクマシンから出資を受けるなど手厚い支援を頂いたことから、ローレルを冠した社名になりました」と説明する。創業メンバーに名を連ねていない藤井社長は、いつどのようにしてローレルインテリジェントシステムズと関わりをもち、代表取締役社長を務めることになったのか。そこには当時の鳥飼

社長との運命的な出会いがあった。

運命に導かれてローレルインテリジェントシステムズへ

「周りへの感謝と出会った人との縁を大切に」

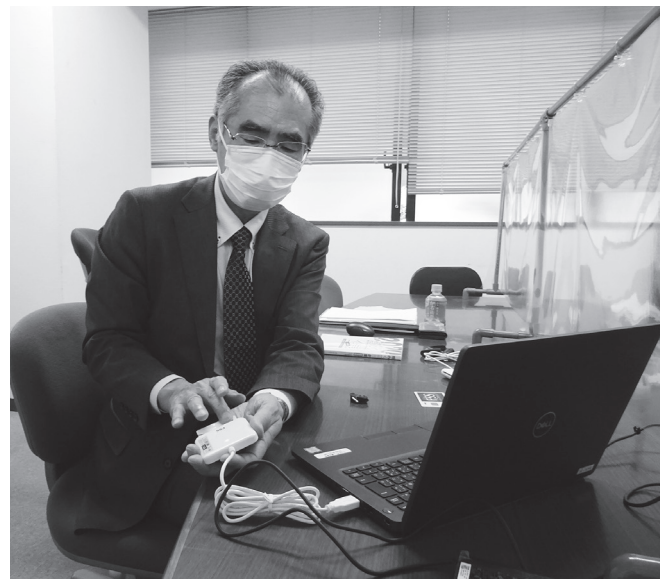
岩手県出身の藤井社長は東京理科大学理工学部を卒業後、電機メーカーである日立電子株式会社（現日立国際電気）へ入社。同僚と切磋琢磨をしながら順調にキャリアを重ねていた。しかし、入社5年目の時に「このまま今の会社で良いのか…」と自身の将来に疑問を抱くようになる。転職を決意した藤井社長が行き着いたのは、当時金融機関向けのシステム開発を行っていた日本アクティ・システムズという会社だった。今までの経験を活かし、システムインテグレーターとして再スタートを切った。

「私が28歳の頃で、ちょうど子供が生まれた時期でもありました。人生の中で大きなターニングポイントになりましたね」と振り返る。

日本アクティ・システムズでの仕事を順調にこなしていた藤井社長は、平成4年に後に代表となるローレルインテリジェントシステムズと接点をもつようになる。

「鳥飼社長（当時）が金融機関向けのデータ保管の新ビジネスを打ち出し、誰か手伝ってくれる人物を探していました。一方私は大きなプロジェクトが終わって一段落といったタイミングでしたので、すぐに私が手伝ってみましょうかと言って、その新ビジネスの概要を聴きに行ったのが最初の出会いです」

運命に導かれるようにして、鳥飼社長（当時）と藤井社長が邂逅を果たすこととなった。



指紋センサー搭載カードによるセキュリティ管理

「烏飼社長（当時）の凄まじい情熱に惹かれ、一緒にビジネスをさせて頂くことになりましたが、情報セキュリティ、特に暗号は私にとって未知の分野でした。でも知れば知る程興味が湧き、アイデア次第で色々できるんじゃないかと無限の可能性を感じたのを今も鮮明に覚えています」

日本アクティ・システムズを離れた藤井社長は、ローレルインテリジェントシステムズの開発会社としてローレルセキュリティパークを設立。間もなく同社は本体に吸収され、平成9年9月に藤井社長は開発センタール長としてローレルインテリジェントシステムズへ正式に入社することとなった。

その後、常務取締役企画開発本部長を経て、平成24年5月に代表取締役社長に就任。今は代表となつて10年目を迎えている。

藤井社長は、「これまで山あり谷ありで色んなことがありました。しかしどんな時にも周りの皆様に対する感謝の気持ちを忘れず、出会った人との縁を大切にしてきました。今日私があるのはまさに皆様のお陰によるものです」と感慨深げに語る。

クライアントの情報資産を守るFSS（ファイル・セキュリティ・システム）

ICカードとパスワードの二要素認証を導入

設立から30年以上の歴史を刻んできたローレルインテリジェントシステムズは、これまで一貫して情報セキュリティシステムの開発・販売を行ってきた。

主力は同社オリジナルのFSS（ファイル・セキュリティ・システム）スマートシリーズ。ニーズや時代背景に応じてアップデートを繰り返し、現在はバージョン10が最新版となっている。

「当社が守るのはお客様の情報資産。守る上で注意しなければならないのは内部漏えいと外部からの攻撃です。そこで当社で採用しているのが、二要素認証と暗号キー・生体情報等の管理をICカード内で行う当社独自の仕組みです」

二要素認証を可能としているのがICカードとパスワードだ。大切な情報の入ったパソコンにリーダーライターをつけ、そこにカードを差し、パスワードを入力する。（※パスワード認証はカード内部で実行され、連続6回不正でカードロックとなる）これで初めてパソコンを開いて自由に操作ができるようになり、機密ファイルはカード内の複数暗号キーを利用して暗号化する、といった仕組みだ。

「ICカードのみ、パスワードのみではダメ。両方揃って初めて操作ができますし、離席時にカードを抜けばパソコンロックとなり、不正利用やパスワードの使い回しなどのリスクを防ぐことができます」

今ではパスワード認証の代わりに指静脈認証や顔認証といった仕組みで利用することもでき、令

和3年には新たな二要素認証の仕組みとして「指紋センサー搭載カード+指紋認証」システムを開発した。

新たな認証システムについて藤井社長は、「既存のユーザー様でも現行のFSSカードと新たな指紋センサー搭載カードを混在して使用することができ、追加導入が容易に行えますし、ネットワーク環境をこのシステム導入により変更する必要もありません」とアピールする。

「ユーザー様には従来からあるパスワード、指静脈、顔、そして今回の指紋の中からコスト面や強度面を考慮して最適なものを選んで運用頂ければと考えています」

「二要素認証と機密ファイル暗号化を基本としたこのFSSは、ユーザーごとに扱えるデバイスを細かく制限する機能やパソコンの利用履歴を一目瞭然にできるログ管理、さらにはニーズに応じて様々なセキュリティオプションを付属させることもできる。」

「こうした機能によって、不正操作・不正コピー・情報の持ち出しの防止や権限者による不正使用の抑制などに繋がられます」

FSS最大の特徴は「専用サーバー不要なシステム構築・運用」

ICカードによる情報管理でパソコン1台からでも導入可能

社会のニーズに応じて進化を続けてきたFSS（ファイル・セキュリティ・システム）だが、その裏には藤井社長をはじめとしたスタッフの飽くなき探求心と昼夜を分かたない努力の蓄積があった。

「寝ている時や移動中も常にメモを携帯し、アイデアが浮かべばすぐに記録をして開発に繋がっていました。まだ世の中のないシステムの開発であったため、とにかく一日でも早く良いシステムを生み出そうと必死でした」と振り返る。

情報セキュリティに対するニーズの高まりとともに、ライバルとなる同業他社もこれまで多く存在。激しい競争にさらされ、潰れた企業も少なくない。

こうした中でも、ローレルインテリジェントシステムズは着実に売り上げを伸ばし成長を続けてきた。今では地方銀行、信用金庫、信用組合、JAなどの金融機関をはじめ、各省庁、地方自治体、警察関係、医療機関など全国的に幅広い業界で採用されており、FSSユーザーは数千社を超える。

このようにしてクライアントから大きな信頼を集めてきた大きな要因の一つが、FSSの最大の特徴ともいえる部分、「専用サーバー不要なシステム構築・運用」だ。

「パスワードや生体情報といった鍵となる情報を全てカードで管理をしている点が当社の大きな特徴です。これによって、パソコン1台でも1万台でも簡単にセキュリティを導入できます。当社オリジナルのシステムで、多くのユーザー様にご利用頂いているゆえんとなっています」

スタッフ一同が大切にしているワーク・ライフ・バランス

「多くのユーザー様から選ばれる企業になりたい」

2年に及びコロナ禍は、法人、個人、そしてあらゆる業種・業界に大きな影響を及ぼしてきた。ローレルインテリジェントシステムズも多分に漏れず、一番の大きな変化は社員のテレワーク導入だ。

藤井 幹雄 (ふじい・みきお)

昭和 34 年生まれ。岩手県出身。
 昭和 57 年東京理科大学理工学部卒業。同年 4 月日立電子株式会社（現日立国際電気）入社。
 昭和 62 年日本アクティ・システムズ株式会社入社。
 平成 8 年株式会社ローレルセキュアパーク設立。
 同 9 年株式会社ローレルインテリジェントシステムズ入社。
 開発センター長、常務取締役企画開発本部長を経て平成 24 年代表取締役社長就任。

株式会社ローレルインテリジェントシステムズ

<https://www.lis-fss.co.jp/>

所在地

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-10
 第 2 ローレルビル 1F
 TEL 03-5510-4711 FAX 03-5510-3011



設立

平成元年 12 月

資本金

1 億円

事業内容

情報セキュリティシステムの開発・販売
 保守・サポート業務

企業理念

「誠意」「熱意」「創造」の三つを合言葉に、21 世紀の社会基盤となる情報システムのセキュリティソリューションを提供することで広く社会に貢献。



パスワードや生体情報といった鍵となる情報を全てカード内で管理

藤井社長は「テレワークは私たちの理想の働き方を改めて考えるきっかけとなりました」と話す。「昔の私は四六時中システムのことを考えていたせいか、片頭痛に悩まされました。でも今は私を含めスタッフみんなが自分のワークライフバランスを大切に考えています。仕事のオンオフを上手く使い分け、仕事と家庭を両立させ、スタッフみんなが心身ともに充実した人生を送って貰えればと願っています」

また藤井社長は「良いアイデアを出すためには気分転換も大事ですし、様々な情報に触れることも大切です。その点はテレワークにおけるメリッとの1つとして活かしてくれればと思っています」とも。

コロナ禍を機に働き方が変わったというローレルインテリジェントシステムズだが、仕事のニーズも着実に増えている。そんな中で「今の時代の新たな生活様式を私たちのビジネスチャンスと捉えています。新製品を含め競合製品との差別化や優位性を積極的に発信し、他社システムとの連携も強め、多くのユーザー様から選んで頂ける会社になっていきたい」と力を込める。

ネットワーク社会の中での情報セキュリティというある意味時代の先頭をひた走る事業を手掛ける藤井社長。とても穏やかで優しい人柄が印象的だった。